

光技術応用医療機器開発へ

光産業創成大学院大 新研究領域

浜松ホトニクスなどが開設した光産業創成大学院大(浜松市西区)は26日、2020年4月に新しい研究領域「バイオフォトニクスデザイン分野」を設けると発表した。医療現場が抱える課題をくみ上げ、光技術を応用して解決する医療機器やバイオ機器の開発と事業化を目指す。

薬事法や特許、経営学など関連する授業科目を新設する。浜松医科大学や静岡大、静岡文化芸術大などが専門知識の習得と事業計画書の作成、試作品開発を支援する。

これまで光技術を利

用した医療・健康分野の研究開発は検査装置が中心だったが、治療機器に発展させる。滝口義浩学長は「高齢化や新興国の人口増で新しい医療機器への期待が高まっている。多彩な人材を育てたい」と話した。

同大学院大は05年4月、新産業創出と起業家育成を目的に開学した。光産業創成研究の単科で、入学後に「光情報・システム」「光エネルギー」などの研究領域を選択する。バイオフォトニクスデザインが加わることで、20年度以降は研究領域が7分野になる。

